

2022 地下の正倉院展 —平城木簡年代記〔クロニクル〕—
 展示木簡リスト

展示番号	木簡の内容	前期 10/15~10/30	後期 11/1~11/13
I 姿を現した「平城木簡」—1960年代出土木簡—			
◎ 1	平城宮跡最初の木簡		
◎ 2	甲斐国からのクルミの荷札 1		
◎ 3	藤原仲麻呂の乱前夜の政治的緊張をうかがわせる木簡		
◎ 4	甲斐国からのクルミの荷札 2		
◎ 5	「西宮」を警備する兵衛の木簡		
◎ 6	備前国からのクラゲの荷札		
◎ 7	お香の付札		
◎ 8	伊豆国からのカツオの荷札		
9	考課（毎年の勤務評価）に使われた木簡		
10	続労銭の付札 1		
11	遣渤海使の勤務評定の木簡		
12	続労銭の付札 2		
II 根を張り芽吹く木簡研究 —1970年代出土木簡—			
13	丹波国からの白米の荷札 1		
14	丹波国からの白米の荷札 2		
15	国郡名を列記した木簡		
16	千字文の文字を練習した木簡		
17	東西楼閣のことが書かれた木簡 1		
18	東西楼閣のことが書かれた木簡 2		
III 衝撃の長屋王家木簡・二条大路木簡 —1980年代出土木簡—			
○ 19	朱沙の進上を命じた木簡		
○ 20	いくつかの語句や文字を繰り返し記した習書木簡		
○ 21	印章や建物について記した文書木簡		
○ 22	長屋王を「親王」と表記するアワビの「贄」の荷札		
○ 23	収穫したイネの収納についての指示を求める文書		
○ 24	粕漬けの冬瓜や茄子などの漬物の送り状		
25	各種の土器の数量と値段が記された木簡		
26	意保御田からの瓜の進上状		
27	伊勢国から藤原麻呂邸に届けられた公文書の箱の蓋		
28	行書風の文字で記した藁の借用依頼の手紙の木簡		
29	吉野行幸で使わなかった貫簀に付けた整理用の付札		
30	油の帳簿に転用された文書箱の蓋		

展示番号	木簡の内容	前期 10/15～10/30	後期 11/1～11/13
IV 木簡が明かす平城宮の姿 -1990年代出土木簡-			
☆ 31	参河国からの赤米の荷札		
☆ 32	「海部郷」からの赤米の荷札		
☆ 33	春宮坊の存在を示唆する木簡 1		
☆ 34	皇后宮職の存在を示唆する木簡 1		
☆ 35	春宮坊の存在を示唆する木簡 2		
☆ 36	皇后宮職の存在を示唆する木簡 2		
V 広がる平城木簡の世界 -2000年代出土木簡-			
☆ 37	明治時代の将棋の駒 1		
☆ 38	明治時代の将棋の駒 2		
39	左衛士府の宿直担当者を報告する木簡		
40	巻き貝の付札		
41	銭千文の付札		
42	中国の古い筆法をまねた異形の木簡		
43	春宮用の物品の付札		
44	カツオの付札		
VI 平城木簡のニューフェイス -2010年代以降出土木簡-			
☆ 45	右大舎人寮に関わる文書木簡		
☆ 46	美作国（備前国）からの庸米の荷札		
☆ 47	「奈良京」と記された木簡		
☆ 48	「烈里」からの調塩の荷札		
☆ 49	内蔵寮から宮内省へ宛てられた文書木簡		
☆ 50	女官の考課（毎年の勤務評定）に使われた木簡		
☆ 51	近江国からの荷札		
☆ 52	万葉仮名で和歌が記された木簡		
☆ 53	左大舎人寮の考文の付札		
☆ 54	駿河の国郡名が記された木簡		
☆ 55	美濃国からの庸米の荷札		
☆ 56	庸米の荷札の断片（?）		

☆は「地下の正倉院展」初出品、◎は国宝、○は重要文化財を示します。木簡の内容の詳細は、各会期の解説シートをご覧ください。